



横浜労災病院

TEL : 045-474-8111

当院ホームページ QRコード

横浜労災病院眼科の小切開硝子体手術

当科では、地域の中核病院として白内障、網膜硝子体疾患、緑内障をはじめとした幅広い領域の眼科疾患の手術、治療を行っています。

特に中でも、当科が得意とする網膜硝子体疾患の手術治療は早期に治療介入することが患者さんにとっても視力維持においてベストなことがあります。

横浜労災病院 眼科 副部長
佐藤 美紗子



当院眼科医師



眼科外来の視能訓練士、看護師、医師事務

網膜硝子体疾患、硝子体手術とは？

硝子体手術が必要な代表的な病気としては、黄斑上膜、黄斑円孔、増殖糖尿病網膜症、裂孔原性網膜剥離、硝子体出血（糖尿病網膜症・網膜静脈閉塞症・加齢黄斑変性症などによる）、眼内レンズ落下などが挙げられます。

病態はそれぞれ異なりますが、眼の内側から硝子体カッターや鑷子(せっし)といったものを用いて、出血などの混濁した硝子体や、増殖した網膜硝子体組織の除去、また網膜を牽引している膜状組織の除去処置が必要になるため、硝子体手術が必要になります。

しかし、上記に挙げられる疾患でも、手術ではなくレーザー治療や薬剤の硝子体注射といった治療が適している状態のこともあり、専門の医師による診察が必要です。

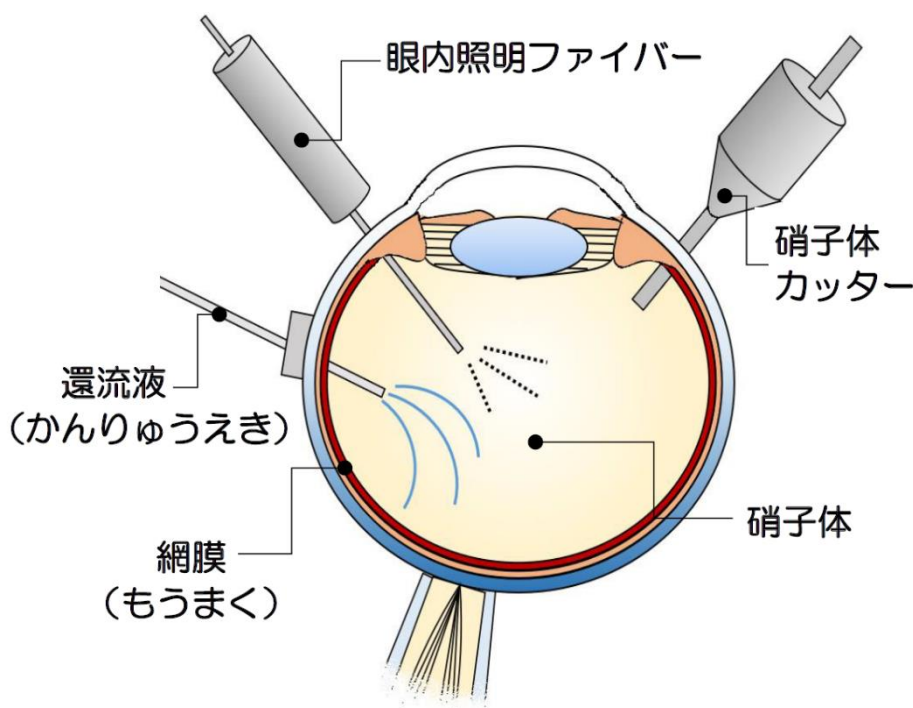
判断に迷われた際でも、まずは受診いただければこちらで適応判断をさせていただきます。

患者さんの負担の少ない小切開硝子体手術

手術は局所麻酔で行います。手術時間は症例によって異なりますが約30分～60分です。病状によってはそれ以上かかることもあります。まずは、眼球に4か所の創口を開けます。

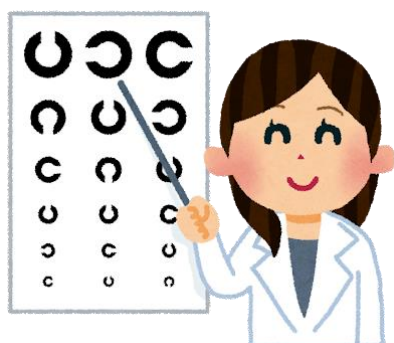
当院では患者さんの負担を最小限にとどめるため、0.4mmの小切開での硝子体手術システムを採用しています。傷口は小さいため、縫わずに手術を終えることができます。まず1か所に還流液を流し、眼内圧を一定にして手術中の眼球形態を保ちます。

別の箇所から眼内を照らす照明器具や硝子体カッターを挿入して、硝子体の混濁や膜状組織を切除して吸引します。カッターで切除した硝子体の分量だけ眼内に還流液が流れ、置き換わります。疾患によって、網膜上に張った膜をピンセット様な器具で除去や、網膜にレーザー照射を行います。また網膜剥離や黄斑円孔などの病気は還流液をガスに置き換えて手術を終えます。白内障がある場合には同時に手術を行います。



最後に

硝子体手術は以前と比べ、安全性も高く、受けやすい治療となりました。しかしながら世間で多く行われている白内障手術の「手術翌日からすっきり見える」というイメージとは異なり、術後の視力回復はゆっくりであり、また病態によっては見え方を回復させることはできず、進行の予防、失明の予防を目的とした手術となることもあります。



また、「逆の眼は見えているから大丈夫」「手術が怖い」ということから受診のタイミングを逸し、手術を行っても十分な視力回復が得られないこともあります。また高齢化も進み、手術を行うか迷う方もいらっしゃると思います。手術適応か迷う場合でも一度当科を受診いただければと思います。詳しく検査を行い、病態を正確に把握したうえで、病態のみならず患者さんご本人の希望も聞きながら治療について相談してまいります。